

フロンティアスクール用報告書

都道府県名	広島県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	東広島市立東志和小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	11
児童数	14	13	23	13	19	23	0	105	

II 研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を 自ら身につける 教育の創造

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・国語科

- ・ NRT（全国標準診断的学力検査）の結果、国語科の「書くこと」「読むこと」の領域における定着が低く、個人差も大きいため。
- ・ 特に「筋道を立てて文章を書く」ことや「論理的に書かれた文章の内容を正しく読み取る」ことが、全学年共通の課題であるため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ テーマ 算数科における基礎・基本の定着と発展的な学習の推進</li> <li>○ 研究の見通し             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習過程で自力解決の場や思考力を深めるための集団解決の場、振り返りの場を設定することで、基礎・基本の定着を図ることができるであろう。</li> <li>・ 関心・意欲・態度や知識・理解の個人差に応じて算数的活動を取り入れることで、個々の学力を伸ばすことができるであろう。</li> </ul> </li> <li>○ 研究内容・方法             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 算数科の関心・意欲・態度や知識・理解及び家庭学習の実態を把握し、課題を明確にする。</li> <li>② 理論研修・・・・・・・・算数科における基礎・基本の捉え方 算数的活動の導入，発展的な学習の仕方</li> <li>③ 学習過程の工夫・・・自力解決，集団解決，振り返りの場の設定</li> </ul> </li> </ul>
--------	--

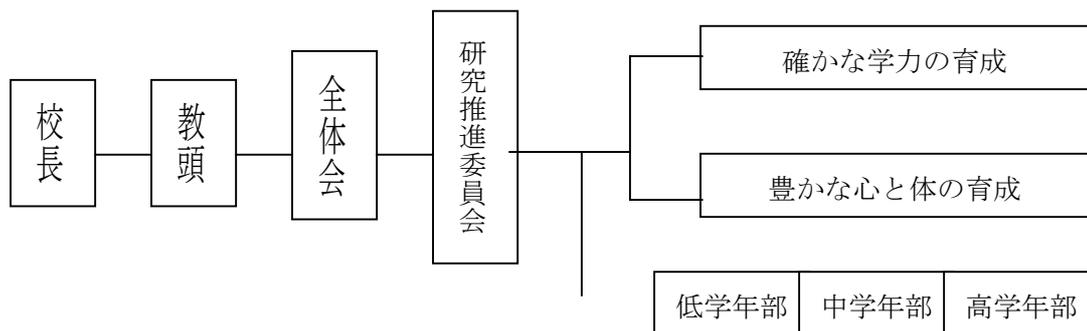
平成 14 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>④ 評価の工夫・・・評価規準の設定と自己評価・相互評価の活動</li> <li>⑤ 指導形態の工夫・・・ティームティーチング 少人数指導（習熟度別・課題別コース学習）</li> <li>⑥ 授業研究・・・検証授業（教材提示，算数的活動の導入，自力解決や集団解決を高める学習展開・発問，評価）</li> <li>⑦ 教科担任制・・・5，6年生国語科・算数科</li> <li>⑧ 補充学習・発展学習の教材づくり</li> <li>⑨ 小中連携・・・基本的生活習慣，学習規律，わかる授業づくり，指導方法の工夫</li> <li>⑩ 保小連携・・・基本的生活習慣の定着</li> </ul>
----------------	---

平成 15 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ テーマ 国語科における「伝え合う力」を高めるための取り組み</li> <li>○ 研究の見通し <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語科の関心・意欲・態度や書く・読むことの個人差に応じた少人数（習熟度別や課題別）指導，ワークシートを工夫するなどのきめ細かな指導を行うことで，個々の学力を伸ばすことができるであろう。</li> <li>・ 児童が目的意識をもって言語活動に取り組めるように，単元全体を見通して1時間ごとの学習活動や判断基準を明確にした単元づくりや「自分の考えを持つ，書く，発表し深め合う，ふり返る」学習展開，発表型・報告型・対話型などの学習方法を導入することで，児童に「伝え合う力」をつけることができるであろう。</li> <li>・ 国語科で学んだ「伝え合う力」を生かすために，学校行事や朝会・集会，放送などの場を積極的に活用することで，児童の「伝え合う力」を高めることができるであろう。</li> </ul> </li> <li>○ 研究内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>⑪ 国語科の関心・意欲・態度や知識・理解及び家庭学習の実態を把握し，課題を明確にする。</li> <li>⑫ 理論研修・・・国語科における「伝え合う力」の捉え方，講師招聘，他校の授業研究参加</li> <li>⑬ 授業研究による指導方法の改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習過程・学習方法の工夫・・・目的意識をもって言語活動に取り組む単元作り 自分の考えを持つ，書く，発表し深め合う，評価の場の設定 発表型・報告型・対話型などの学習方法の導入</li> <li>・ 評価の工夫・・・・・・・・評価規準の設定と自己評価・相互評価の活動</li> <li>・ 個に応じた指導・・・・・・・・少人数（習熟度別・課題別）指導やワークシートの工夫</li> </ul> </li> <li>⑭ 教科担任制による系統性や専門性を生かした指導</li> <li>⑮ 伝え合う力を育成する学習環境の整備，教科以外での伝え合う場の設定</li> <li>⑯ 他教科や総合的な学習の時間との関連を生かした年間計画の作成</li> <li>⑰ くり返し学習（ステップ学習）の内容や教材の開発</li> <li>⑱ 小中連携・・・・・・・・学習規律，わかる授業づくり，指導方法の工</li> </ul> </li> </ul>
----------------	---

	夫
	⑱ 保小連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・基本的生活習慣の定着，行事等の交流

平成 16 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ テーマ 国語科・算数科における基礎・基本の定着と個に応じたきめ細かな指導の推進</li> <li>○ 研究の見通し <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少人数指導における効果を高めるための手だてを明らかにし，個に応じたきめ細かな指導を行うことで基礎・基本の定着や自ら学ぶ力をさらに育てることができるであろう。</li> </ul> </li> <li>○ 研究内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 国語科・算数科の関心・意欲・態度や知識・理解及び家庭学習の実態を把握し，課題を明確にする。</li> <li>➢ 授業研究による指導方法の改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習過程・指導方法の工夫・・・・・・・・少人数指導の効果を高める個に応じた手だての工夫</li> <li>・ 指導・評価の改善・・・・・・・・学習活動における教材提示・発問の工夫，評価活動の工夫</li> </ul> </li> <li>➢ 教科担任制による系統性や専門性を生かした指導</li> <li>➢ 他教科や総合的な学習の時間との関連を生かした年間計画の作成</li> <li>➢ 国語科・算数科の学習環境の整備</li> <li>➢ くり返し学習（ステップ学習）における個に応じた教材の開発</li> <li>➢ 小中連携・・・・・・・・学習規律，わかる授業づくり，指導方法の工夫</li> <li>➢ 小学校間連携・・・・・・・・合同授業研究，国語科，算数科の統一評価規準の作成</li> <li>➢ 保小連携・・・・・・・・基本的生活習慣の定着，行事等の交流</li> <li>➢ 3年間の学力向上フロンティア事業の成果と課題をまとめる</li> </ul> </li> </ul>
----------------	---

(3) 研究推進体制



### Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

少人数（習熟度別・課題別）指導の推進，単元全体を見通して1時間ごとの学習活動や判断基準を明確にした単元づくりや「自分の考えを持つ，書く，発表し深め合う，ふり返る」学習展開，発表型・報告型・対話型などの学習方法の導入，学校行事や朝会・集会，校内放送など国語科以外での「伝え合う」場の設定により，次のような成果があった。

- 学習内容の理解度が上がり，「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言語事項」の定着度が伸びた。
- 国語科への「関心・意欲・態度」が向上してきた。

[ある学年の事例]

- ◎ 国語科の1学期・2学期末のまとめテストの結果を比較した。

(表1)

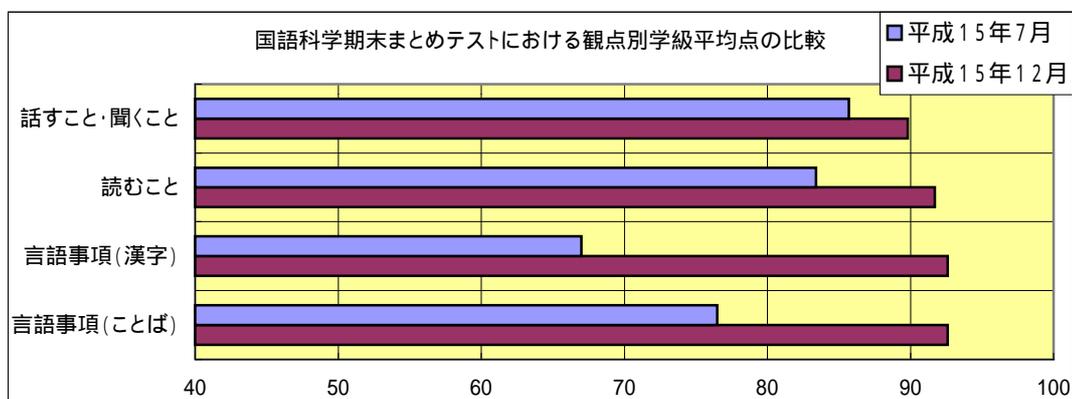


表1によると，2学期末のまとめテストでは，1学期末に比べどの観点も平均点が伸びている。特に「言語事項」の伸びが大きい。

- ◎ 国語科の平成14年12月，平成15年7月・12月の「関心・意欲・態度」の意識調査結果を比較した。特にここでは，昨年度課題のあった「国語の学習が好き」「分かった・できたの喜びを感じる」「授業中，自分の意見を発表する」の3項目を抽出した。

(表2)

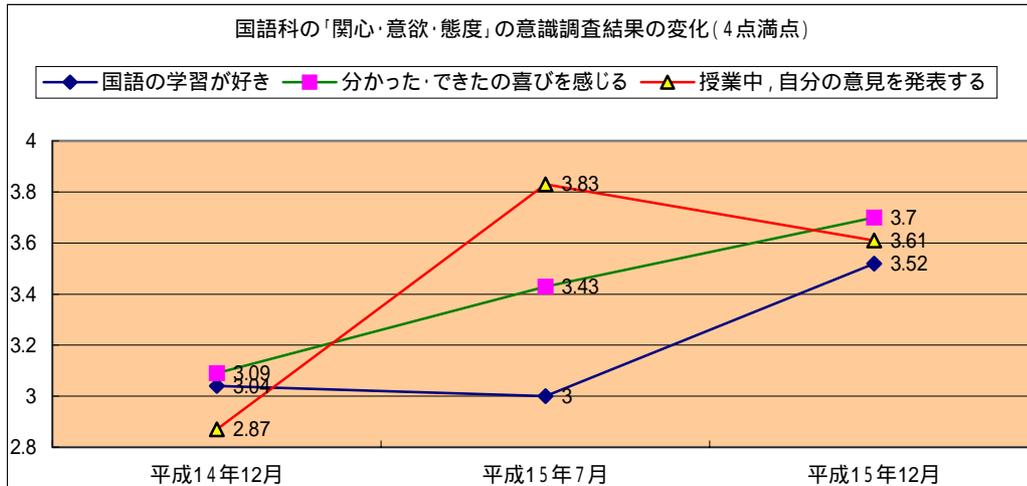


表2によると、「国語の学習が好き」「分かった・できたの喜びを感じる」「授業中、自分の意見を発表する」の3項目については、昨年度に比べ得点が0.5ポイント以上伸びている。他にも、課題別に分かれた授業後の児童のアンケート調査では、「国語が好きになった」や「国語が好きになってきた」と全体児童の52%が書いていた。また、「たくさん発表ができた」や「発表がしやすい」と全体児童の74%が書いており、課題別に分かれた授業は、児童にとって満足感のある学習であった。

以上の2つの成果は、次のことに取組んできたことによるものである。

① 個に応じた指導の推進

- ・ 2名体制で指導している学年では、少人数（習熟度別、課題別）指導を全単元に位置付け、個に応じた指導を推進してきた。これにより、児童一人一人の学習状況の把握や個別の指導・評価を行いやすくなった。
- ・ 座席表を活用して児童の学習状況やつまづきを記録し、数種類のワークシートの作成、教材文のリライトなどによる、個に応じた手だてを行った。
- ・ くり返し学習（ステップ学習）では、全学年の「漢字」、各学年の「ことば」に関する内容、「視写」のプリント集を作成し、個々の児童の実態に応じて取り組ませた。

② 児童が目的意識をもって言語活動に取り組むための単元づくりや学習過程の工夫

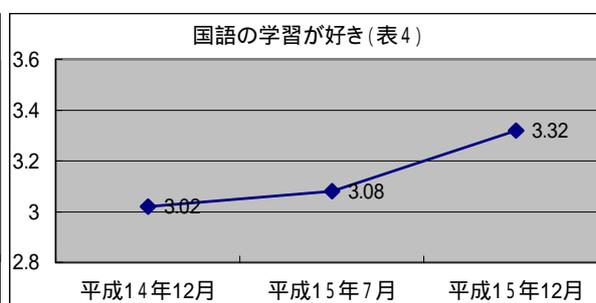
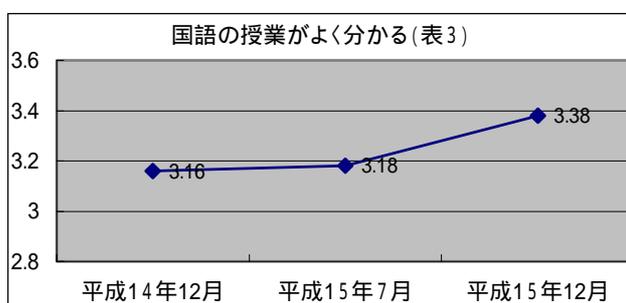
- ・ 単元づくりでは、単元全体を見通した1時間ごとの「ねらい・学習活動・判断基準」を明記した単元指導計画を作成し、単元終了後には、児童の様子や成果と課題を記録した。
- ・ 授業研究では、「説明的文章」に絞って、教材文から読み取った内容、文章構成、段落構成を「発表・報告・対話」などの話す・聞く活動、クイズや事典作り・意見文などの書く活動に生かす単元づくりを行い、児童の目的意識を持続できるようにしてきた。

- ・ 1時間の学習過程では、児童が「自分の考えを持つ、書く、発表し深め合う、振り返る活動」の時間を確保し、指導者が個に応じた指導・評価を行いながら、自分の意見に自信を持たせて発表させるようにしていった。

③ 国語科以外での伝え合う場の設定

- ・ 国語科で学んだ「伝え合う力」を生かすために、学校行事での教材文を脚本化した演劇、全校朝会・全校集会における各学年の発表、給食時の校内放送での音読や暗唱の発表などの場を多く設けた。

これらの取組により、次の表3、表4の通り、学校全体でも国語科への理解度や関心が高まってきた。



[その他の成果]

- 各学年とも2学期の単元末テストの平均点は、1学期に比べ、1.0～8.5点向上している。
- 今年度、全校をあげて「短歌・俳句」作りに取り組んだ。県民文化祭の短歌コンクールでは、上位8名の中に3名の児童が入賞し、8名が入選した。また、NHK全国ジュニア短歌・俳句コンクールでは、8名の児童が入選した。

2. 今後の課題 (方向性)

- 少人数指導の効果を高めるために、コース別の学習内容や手だてを工夫する。
- 教科と総合的な学習の時間との関連を明確にした年間指導計画を作成する。
- 国語科、算数科の個に応じたくり返しの教材を開発する。

IV 学力把握のための学校としての取組

- 国語科、算数科のNRT (全国診断的学力検査) の実施・・・6月に2年生以上を対象に実施～6年生は3月にも実施
- 広島県基礎・基本定着状況調査 (国語科、算数科の定着度調査及び生活と学習に関する意識調査：5月に5年生を対象として広島

- 県が実施)の分析・・・8月に広島県平均，東広島市平均との比較分析
- 全学年の国語科，算数科の単元末テストの結果分析・・・7月，12月，3月
  - 国語科，算数科における「関心・意欲・態度」の状況を把握するための意識調査・・・5月，7月，12月，3月に全学年を対象に実施
  - 生活全般，学習全般における状況と傾向を把握するための意識調査・・・7月，12月，3月に全学年を対象に実施～1年生は，7月は実施せず)
  - 全児童の個人カルテの作成・・・7月，12月，3月に各担任がこれまでの記録をもとに書く(内容；NRT偏差値，NRT領域別通過率，国語科，算数科の単元末まとめテストの結果と個の課題及び課題克服のための手だて，学習全般における個の課題及び課題克服のための手だて，生活面における個の課題及び課題克服のための手だて)

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 学校便り，学年便りでの発信。
- 学級懇談会や全校保護者会で，児童の実態について説明。
- ホームページでの発信。
- 志和町の児童生徒の実態や取組の状況を志和町3小学校1中学校合同で研究紀要にまとめ，市内の学校に配布。
- 志和町のフロンティアスクールとしての取組をダイジェスト版のパンフレットにまとめ，町内の全保護者に配布。

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】**       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】**               6学級以下               7～12学級  
 13～18学級               19～24学級  
 25学級以上
- 【指導体制】**               少人数指導               T・Tによる指導  
 一部教科担任制               その他
- 【研究教科】**               国語               社会               算数               理科  
 生活               音楽               図画工作               家庭  
 体育               その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】

有

無